

2003年研究室活動記録

2003年度講義内容一覧

【比較成人教育論Ⅰ】 担当：教授・佐藤一子

「アクションリサーチ」の概念・方法に注目し、論集“Handbook of Action Research”(P.Reason, H. Bradbury eds., SAGE Publications, 2001)の講読を進めた。学際性豊かな思想的系譜や、欧米の事例を学んだ。学期末に主要キーワード集を作成した。

【比較成人教育論Ⅱ】 担当：教授・佐藤一子

前期からの継続で以下の三点が柱となり、アクションリサーチの概念把握がめざされた。①同論集を継続的に講読。②日本の議論や参加者の関心につなげ、日本語文献をアクションリサーチの視点から検討。③アクションリサーチを自らの研究方法論の一つとして、あるいは研究対象として、いかに捉えているかについて個人発表。

【社会教育基礎論】 担当：助教授・鈴木真理

生涯学習をとりまく社会環境についての基本文献をもとに、少子化、高齢化、国際化、情報化など「現代的課題」とされる特定のテーマごとに、社会教育を中心とした生涯学習支援のあり方を検討した。また同時に、そもそも「現代的課題」としてどのようなテーマが特定されるのか、というより基底的な問題についても考察が試みられた。

【社会教育計画論】 担当：助教授・鈴木真理

生涯学習を支援する様々な主体や方法等について検討した。具体的には、民間営利機関、民間非営利機関・団体、行政委嘱委員・ボランティア、財政、生涯学習の評価・認証システムなど。旧来の社会教育行政中心の支援にとどまらない生涯学習支援の全体像を見据えつつ、個々のテーマについて議論された。

【社会教育学基礎理論Ⅲ】 担当：非常勤講師・松田武雄

本演習では、近代日本における社会教育の成立過程を検討するとともに、社会教育史研究・社会教育研究方法論について参加者で討議することを主眼とした。日本にとどまらず、東アジアへの社会教育の導入・成立過程についても論及し、国際的な視野で社会教育を理解することにも重点が置かれた。本コースの院生のほか、他コースからの参加者もあり、積極的な意見交流が行われた。

【社会教育学基礎理論Ⅳ】 担当：非常勤講師・松村直道

高齢社会における学習支援、高齢者の学習支援を考える前提として、高齢者文化の現代的諸相について理解を深めた。ニューエイジング、団塊世代などをキーワードにした調査報告書や図書、論文の検討とともに、事例の検討がなされた。

【生涯学習論論文指導】 担当：教授・佐藤一子

ゼミ形式として、年度始めにはM2の修士論文執筆予定者に対し、問題意識・先行研究の検討、研究方法の明確化が図られた。そして、博士課程進学者に対し、研究計画構想の検討が行われた。さらに、M1の修士論文執筆予定者に対し、問題意識を中心とした検討が行われた。また、個人指導形式で、修士論文、紀要論文、博士論文等の検討が行われた。

【社会教育学論文指導】 担当：助教授・鈴木真理

例年同様、ゼミ形式、及び各自への論文執筆指導の形式で進められた。学位論文執筆者に対しては執筆指導に加え、ゼミでの検討を行った。またこれとあわせて、社会教育・生涯学習関連の最新の紀要・年報に掲載された諸論文(参加者の執筆した論文を含む)を、ゼミ参加者各自の関心に従ってとりあげ検討した。

【児童福祉学校外教育論論文指導】

担当：客員教授・増山 均

子ども・青少年の教育・福祉・文化を研究する参加者が、各自の論文・研究計画について報告を行い、それを議論・検討した。報告は、子どもの遊びとその支援、障害児の発達保障、ストリートダンサーの文化、学校から社会への移行を支援する専門学校の役割、芸術・文化活動の意味解釈、行政とNPOの協働など多岐にわたった。

学位論文

〈修士論文 2003年3月〉

湖上麻子 社会教育施設の機能と施設空間

植上一希 専門学校における職業教育と公的職業資格制度

新藤浩伸 現代社会における成人の芸術活動の意義と方法—表現することを学ぶ—

水田真理 体験学習の意義と課題—学校と地域の関係性の側面から—

金 命貞 「人権としての学習権」の生成とエスニック・マイノリティに関する研究—川崎市における「在日」韓国・朝鮮人の「ふれあい館」設立要求運動を中心に—